

2005年1月7日 朝日新聞（朝刊3面）

### 脳の情報伝達 重要物質確認

東大グループ

神経細胞同士が連絡する接合部（シナプス）では、「ダイナミン」と呼ばれるたんぱく質が、情報伝達物質の放出や回収を支える重要な役割を果たしていることを、東京大医学部の高橋智幸教授（神経生理学）らのグループが確かめた。神経難病の原因解明につながる基礎研究だ。7日付の米科学誌サイエンスに発表する。

シナプスでは、情報伝達物質の受け渡しによって、信号が次の神経細胞に伝わる。神経細胞には放出した情報伝達物質を回収し、次の放出に備えて小さな袋にためておく仕組みがある。

高橋さんらは、この仕組みが動く際にダイナミンが不可欠なことを、マウスなどの脳神経細胞を使った実験で確かめた。